

山本武利著作集

メディア・宣伝・諜報の社会史

全 10 卷

A5 判、上製、各 560 頁（予定）、各 5,200 円 + 税（予価）

2025 年 7 月より刊行開始予定

目次案（2024 年 12 月現在）

第一卷 近代日本のメディア I（2026 年 7 月刊行予定）

解説：土屋礼子

『新聞と民衆—日本型新聞の形成過程』紀伊國屋書店、1973 年

『近代日本の新聞読者層』法政大学出版局、1981 年

第二卷 近代日本のメディア II（2026 年 11 月刊行予定）

解説：土屋礼子

『新聞記者の誕生』新曜社、1990 年

『公害報道の原点』御茶ノ水書房、1986 年

「草創期のメディア・イベント」『近代日本のメディア・イベント』同文館、1996 年より

「新聞解話会の顛末」『古書通信』1989 年 4 月

「『近代日本の新聞読者層』の年表」

第三卷 広告 I（2027 年 3 月刊行予定）

解説：未定

『広告の社会史』法政大学出版局、1984 年より I、II、V、VI 章

「『広告の誕生』岸田吟香と福沢諭吉」『大衆文化とマスメディア』岩波書店、1999 年より

文生書院

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-14-7

電話 03-3811-1683 Fax 03-3811-0296 E-mail : info@bunsei.co.jp

<https://www.bunsei.co.jp/>

第四卷 広告Ⅱ（2027年7月刊行予定）

解説：未定

1—広告代理店（仮）

『広告の社会史』法政大学出版局、1984年よりⅢ章（広告代理店に関わる部分）

「『広告学』への苦闘」『日本の広告』日本経済新聞社（1986年版の改装版）世界思想社、1992年

「解題萬年社の広告活動と『広告年鑑』」『萬年社広告年鑑』第18巻、1985年

2—消費革命（広告）とアジア近代化

総論

「広告は社会を変えたか」『日経広告研究所報』219号、2005年、2・3月

1, 日本

「百貨店と消費革命」『百貨店の広告史』世界思想社、1999年より

「ポスターの役割—20世紀初頭の消費社会の台頭と広告メディア」『印刷博物館年報』2007年

戦後の高度成長と社会心理（書き下ろし）

2, 中国

「改革開放下中国市民の消費・広告意識」『現代中国の消費革命』（編著）日経広告研究所、1989年

「中国市民の消費・広告意識」『一橋大学社会学研究』（西真平との共著）1990年

「出版界事情からみた現代中国」『鐘・一橋大学附属図書館報』1986年11月号

「私の広告研究と中国伝媒大学」『日経広告研究所報』261号、2012年2・3月号

3, 韓国

『日韓新時代—韓国人の日本観』同文館、1994年より155—168頁

4, アメリカ

「消費社会と広告」『現代のマスコミ入門』佐藤毅編、青木書店、1986年

「アメリカ広告管見」山本武利編『現代広告学を学ぶ』世界思想社、1998年より9—20頁

「広告媒体としての地域メディア—なぜアメリカでCATVが広告媒体として発展したのか」竹内郁郎、田村紀雄編著『地域メディア』（新版）日本評論社、1989年、249—266頁

第五卷 戦中インテリジェンスⅠ（2027年11月刊行予定）

解説：未定

1—上海

1, 朝日新聞研究

『朝日新聞の中国侵略』文藝春秋、2011年

「私の朝日新聞研究」『Intelligence』11号、2011年

「朝日新聞の歴史を貫く7つの「ブラック綱領」」『新潮45』2014年11月

「『日中戦争時の大新聞の部数拡張狂奔の実相—ケーススタディ・愛媛県八幡浜市大阪朝日新聞専売店大登新聞舗』『Intelligence』23号、2023年

「大陸画刊解説」（復刻版『大陸画刊』解説、文生書院）

「美土路昌一の上海工作」

2, 上海の情報環境

「成果の少なかった日本の支那派遣軍の活動」『Intelligence』3号、2003年
「上海「租界」から見た列強の言語戦略」『成蹊大学』2011年3月
「租界メディア科研申請書」
「武漢報」PDF
「上海での米軍情報機関の謀略」（映画解説）
「上海での日本諜報機関」
「特別工作の理論と実際」（上海档案館所蔵資料）

2—延安

『延安リポート—アメリカ戦時情報局の対日軍事工作』岩波書店、2006年
解説 「延安リポートの性格」
38号 一九四五年前半の宣伝委員会の活動計画
39号 日本宣撫のための若干の提案—岡野進の見解
40号 日本の労働者への宣伝と彼らの連合国軍との協力の可能性—岡野進の見解
45号 日本労農学校—一つの研究
46号 捕虜の扱い方—敵軍工作ハンドブック第五版
「「延安リポート」に見る野坂参三の天皇論の戦術・戦略」『Intelligence』6号、2005年
『「延安リポート」解説補遺—OSSとOWIの関係』『Intelligence』8号、2007年
「「延安リポート」作成時のOSSとOWIの関係」（外務省研究会リポート）
「野坂参三 米国諜報機関の尋問」『文藝春秋』2002年9月号
「延安をめぐるアメリカ各機関の工作」2023年5月13日、諜報研究会レジュメ
「米戦時情報局が見た中国共産党の日本人工作」『正論』2007年1月、106—115頁
「野坂参三の「延安妻」」『新潮45』2015年4月号 52—64頁
「日本軍は延安の日本兵捕虜の活動をどう見ていたのか」『日本歴史』2006年3月号
野坂の編集印刷発行した刊行物
野坂の入手した日本情報
「山本武利延安訪問記」2007・10・11
「鹿地亘と野坂との位相差」
「延安リポート岩波発行時のパンフ草稿」

第六卷 戦中インテリジェンスⅡ（2028年3月刊行）

解説：佐藤卓己

『陸軍中野学校—「秘密工作員」養成機関の実像』筑摩選書、2017年
『特務機関の謀略—諜報とインパール作戦』吉川弘文館、2017年
『日本のインテリジェンス工作—陸軍中野学校・731部隊・小野寺信』新曜社、2016年
「陸軍中野学校の秘密戦教育—発見された創立期公文書」『新潮45』2015年11月号
「陸軍中野学校重要公文書」『Intelligence』17号 2017年
「陸軍中野学校と藤田西湖」山田雄司編『忍者学大全』東京大学出版会、2023年より165—177頁
「ビルマ戦域における101分遣隊の活動」解説山本武利、訳加藤貞澄 『Intelligence』9号、2007年
「土肥原賢二の美女工作」『図書』2019年8月号

「Use of Chinese Women in Japanese Military Intelligence Operations」『Intelligence』18号、2018年
「成果の少なかった支那派遣軍特種情報部の活動（訳）」『Intelligence』2号、2003年
「国家安全局の日本関係資料（アメリカ国立公文書館所蔵）（訳）」『Intelligence』2号、2003年
「通信検閲論（資料紹介）」『Intelligence』6号、2005年
「陸軍参謀本部（宣伝謀略課）の興亡」『Intelligence』22号、2022年
「日本における初期プロパガンダ研究—操縦と善導」『広報研究』4号、2003年3月
「光機関名」
「諜報宣伝勤務指針の解説」
「諜報宣伝勤務指針」
「特種勤務要員候補者選考試験」

第七卷 米国の対日工作（2025年7月30日刊行予定）

解説：小林聡明

1—捕虜

『米軍による日本兵捕虜写真集』青史出版株式会社、2001年
『日本兵捕虜は何をしゃべったか』新書、文藝春秋、2001年

2—ブラック・ラジオ

『ブラック・プロパガンダ—謀略のラジオ』岩波書店、2002年
「米OSSのサイパン・ブラック・ラジオ」『放送研究と調査』1999年4月、NHK放送文化研究所
「ブラック・プロパガンダ研究序説（上）」『日経広告研究所報』33（3）（185）1999年6月
「ブラック・プロパガンダ研究序説（中）」『日経広告研究所報』33（4）（186）1999年8月
「ブラック・プロパガンダ研究序説（下）」『日経広告研究所報』33（5）（187）1999年10月
「太平洋戦時下における日本人のアメリカラジオ聴取状況」『関西学院大学社会学部紀要』（通号87）
2000年3月
「満州における日本のラジオ戦略」『Intelligence』4号、2004年
「中国におけるラジオ聴取状況（1895—1945）」清水亮太郎訳『Intelligence』5号、2005年

3—OSSからCIAへのアメリカの諸工作

「活用すべきアメリカの日本ラジオ活動の傍受記録」『アジア遊学2003』2003年
「SSUの日本での戦後秘密諜報工作計画案」『Intelligence』2号、2003年
「IBM機械設備の日本での使用状況レポート：IBM日本代表CCD取締役の情報提供とコメント」
『Intelligence 3』号、2003年
「占領下CIA対日工作の協力者」『文藝春秋』2003年5月号
「外国新聞のインテリジェンス的分析法—1945年1月のOSS講義録」『Intelligence』10号、41—49頁、
2008年
「「親日家」ライシャワーの本当の顔」『文藝春秋』2003年11月号

第八卷 占領期 I（2025年11月27日刊行）

解説：井川充雄

1—新聞

『占領期メディア分析』法政大学出版局、1996年（第一章 新聞）より

第一節 二つの読売争議

第二節 『朝日新聞』の「社内革命」

第三節 『毎日新聞』の戦後経営

第四節 戦後新聞史

「〔資料紹介〕GHQ民間情報局による日本新聞分析：1948年」『Intelligence』7号、2006年

「〔資料紹介〕GHQ民間情報局による日本新聞分析：1948年（続）」『Intelligence』8号、2008年

2—通信社

『占領期メディア分析』法政大学出版局、1996年（第二章 通信社）より

第一節 通信社

第二節 ラジオプレスの誕生と発展

「座談会記録 日本側ラジオ傍受機関の戦中・戦後—ラジオプレスの創業者に聞く」『Intelligence』19号、2019年

3—出版

『占領期メディア分析』法政大学出版局、1996年（第三章 出版）より

第一節 講談社の戦争責任処理

第二節 二つの出版団体の相克

「占領期雑誌研究のための基礎資料—GHQによる代表的雑誌の調査・訳・解説」山本武利編『占領期文化をひらく』早稲田大学出版部、2006年

4—放送

『占領期メディア分析』法政大学出版局、1996年（第四章 放送）より

第一節 NHK、民放競合体制への歩み

第二節 モスクワ放送のプロパガンダ活動

5—メディア戦後史

「メディアの戦争責任回避戦術」（書き下ろし）

「占領期のメディア統制と戦後日本」『環』2005年

「戦後メディアの責任の取り方」（『日本の近・現代史と歴史教育』築地出版、107～123頁）

「中途半端なメディアの民主化と戦争責任追及」『研究展望—占領史研究と『GHQ日本占領史』』日本図書センター、2000年

「責任は結局、問われなかった」『中央公論』2005年1月

「戦後メディア史」『メディアの現在形』新曜社、1993年

1972年の社会とメディア『図書新聞』1972年月評

3月11日 新聞の公害報道—もう一つの『毎日新聞』の報道

5月6日 機密のスッパ抜きを

8月12日 新内閣誕生と「黒い情報」

12月16日 現代資本主義の矛盾 市民運動・報道

『マスコミは人を裁けるか—報道される側の人権』ポプラ社、1991年

6—紙芝居

『紙芝居—街角のメディア』吉川弘文館、1996、130 頁
「貧しい時代の豊かなメディア・紙芝居」『本郷』2001 年
「国内外で戦争プロパガンダに活用された印刷紙芝居」フーバー研究所公開講演会レジュメ、2021 年
「Kamishibai Paper Theater and the Supreme Commander for the Allied Powers」
「戦時の印刷紙芝居」『Intelligence』12 号、2021 年
「日本共産党＝『アカハタ』の子供獲得イベント」津金澤總廣『戦後日本のメディア・イベント 1945
— 1960』世界思想社より 1—22 頁
「紙芝居を街頭から消したテレビジョン」『国文学・研究と鑑賞』2011 年

第九卷 占領期Ⅱ（2026 年 3 月 30 日刊行）

解説：十重田裕一

1—占領期検閲

『GHQ の検閲・諜報・宣伝工作』岩波書店、2013 年
『検閲官：発見された GHQ 名簿』新潮社、2021 年
「占領期のメディア統制と戦後日本」『環』2005・夏号「特集占領期再考」22 号
「CCD、CIE の確執」『占領期資料体系文学編』第 4 巻
「検閲とメディアのブラック化」『占領期資料体系文学編』第 3 巻
「CCD 雇用の日本人検閲者の労働現場」『Intelligence』16 号、2016 年
「占領期の GHQ の出版物没収と図書館」『メディア史研究』1 号、1994 年」
「戯作者永井荷風の検閲との長い闘い」『メディア展望』730 号
「永井荷風の作家生命を萎えさせた「情交」検閲」『メディア展望』731 号
「談話 CCD で郵便検閲者だった青春」『Intelligence』20 号、2020 年
「GHQ の日本メディア検閲」『メディア展望』727 号
「「夕鶴」作家木下順二—占領下の暗い表情」『メディア展望』728 号
「謎めいた木下順二の二つの職務掛け持ち」『メディア展望』729 号
中川作一

電話検閲者 いぬいとみこ、アララギ

2—検閲関係文書

- A 組織関係図
 - B CCD の所在地
 - C PPB 年譜
 - D キーログ
 - E 検閲要項
 - F カテゴリー別検閲処分件数
 - G 新聞発行別部数一覧、
 - H 略語表
- 番外 検閲の現場写真、プロセス

第十卷 総索引・目次・著作一覧（2028年7月刊行予定）

解説：土屋礼子

プランゲ文庫研究

「CCD閉鎖とプランゲ文庫の誕生—拉致資料の行方」『Intelligence』20号、2020年

「情報と資料利用の在り方を今に問う—占領期新聞・雑誌資料（プランゲ文庫）を事例に」『別冊 Muse2014』

「プランゲ文庫のデータベース」『外交フォーラム』2004年4月

「プランゲ文庫のデータベース化」『インテリジェンス』1号、2001年

「プランゲ文庫のデータベース化」『インテリジェンス』2号、2002年

「プランゲ文庫所蔵占領期雑誌データベースについて」『出版クラブだより』462号 2003年7月

「占領期雑誌データベースと志賀のことなど」『国文学』2004年4月

「プランゲ文庫目録」解説、文生書院

Bunsei Shoin
Booksellers, Co., Ltd.

14-7 6 chome, Hongo, Bunkyo-ku Tokyo JAPAN 113-0033
Tel.: +81-3-3811-1683 Fax: +81-3-3811-0296
<http://www.bunsei.co.jp> e-mail: info@bunsei.co.jp